

株式会社TEKNIA

適切な作業計画作成による納期遅延の低減
【導入ツール：ものレボ】

適切な作業計画作成による納期遅延の低減

— 実証概要 —

株式会社TEKNIA 概要・実証計画【1/2】

企業概要

企業名	株式会社TEKNIA
所在地	愛知県名古屋市
代表者	代表取締役社長 高橋弘茂
資本金	6500万円（TEKNIA本体）
従業員数	150人（グループ含む）
事業内容	自動車部品、航空機部品、工作機械部品、電機・電子部品等 試作・量産 精密機械加工
概要	・工作機を使った部品加工 ・工作機械、航空機部品、電機・電子部品などの製造一筋に歩んできた精密機器加工専門メーカー
	

取組概要

<経営課題>

物件ごとのリードタイムが部署間で情報共有されていないため判断や処置が遅れ納期遅延が発生することがある

<本事業での取り組み概要>

急な割り込み受注、機械故障などによる作業遅延を理由とした作業計画変更に対応するとともに、適切な作業計画を作成することにより納期遅延を低減させる

実証体制

全体統括	社長 高橋弘茂	【実証担当】 ・大橋TECHS100%委員会委員長 ・名古屋工場 横井工場長代理、他1名 ・愛西工場 巴山工場長 ・ソリューションチーム 兼松 ・品質保証課 二村 ・管理部 三輪、他2名 ・総務部 高坂
実証統括	DX推進委員会 中尾	
実証担当	各部責任者	

適切な作業計画作成による納期遅延の低減 — 実証で利用するデジタルツールと目標設定 —

株式会社TEKNIA 概要・実証計画【2/2】

実証で利用したデジタルツール

<デジタルツール概要>

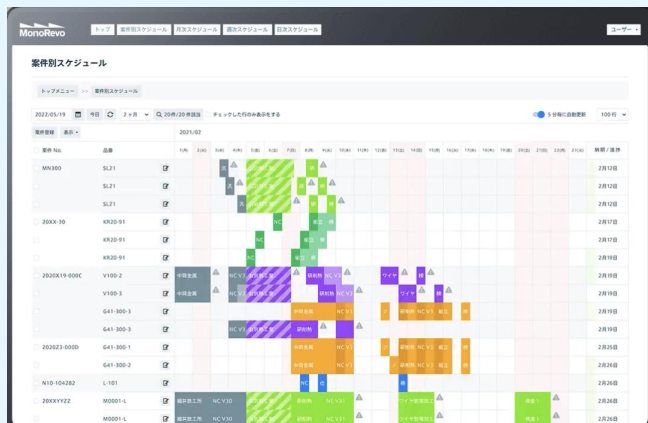
- ・ 名称：ものレボ（ものレボ株式会社）
- ・ 説明：最短3日で導入できる工場DX化ツール。工程管理や在庫管理、受発注管理が可能。

<費用>

- ・ 初期費用：-
- ・ 基本利用料：88,800円／月

<活用方法>

- ・ 従来、紙やホワイトボードなどで行っていた計画変更をツールのスケジュール変更機能を使用して実施。計画変更にかかる修正時間などの削減効果を検証する。



目標とした主な成果



定量成果

- 計画変更時の修正時間を削減
- 計画変更にかかるコストを削減
- 製造計画の共有にかかる時間を削減
- 製造計画の共有にかかるコストを削減
- 納期遵守率の向上



定性成果

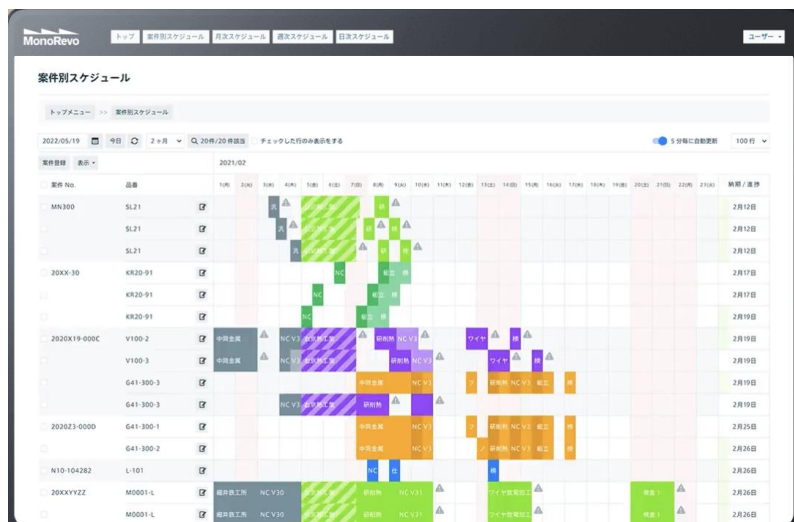
- 特定担当者しか行えなかった計画変更作業を誰もが行えるようにする
- 自社の課題を改めて整理するとともに、課題解決に向けた取組のきっかけを創出する。また、社内他部署との連携を促進し、部門横断での業務改善に向けた意識の醸成を図る。

適切な作業計画作成による納期遅延の低減 — ものレボによる具体的な取り組み事例 —

株式会社TEKNIA 実証結果【1/4】

具体的な取り組み概要（１）

- ものレボの「スケジュール画面」を使用し、スケジュールを自動作成することにより、スケジュール修正の効率化を図る



具体的な取り組み概要（２）

- ものレボの「スケジュール画面」を使用し、現在の作業進捗状況を担当者間で共有する



適切な作業計画作成による納期遅延の低減 — 定量データに基づく工数削減・費用対効果の試算 —

株式会社TEKNIA 実証結果【2/4】

取組の成果（１）定量効果

削減効果

項目	現状	改善目標	実績	改善効果	月あたり改善効果	目標到達
計画変更時の修正時間	1日あたり平均 1.5h	1日あたり平均 0.25h	1日あたり平均 1.0h	1日あたり平均 0.5h（33%）削減	10時間	未達
計画変更にかかるコスト	1回あたり平均 750円	1回あたり平均 125円	1回あたり平均 500円	1回あたり平均 250円（33%）削減	20,000円	未達
製造計画の共有にかかる時間	1日あたり平均 1.5h	1日あたり平均 0.25h	1日あたり平均 0.4h	1日あたり平均 1.1h（33%）削減	22時間	未達
製造計画の共有にかかるコスト	1日あたり平均 3,000円	1日あたり平均 500円	1日あたり平均 800円	1日あたり平均 2,200円（33%）削減	44,000円	未達

費用対効果

項目	金額(円)
デジタルツール導入における削減効果Total	64,000

項目	初期費用(円)	金額(円)／月
ソリューションコスト	0	88,800

今回の実証では、**活用した機能がスケジュール変更機能など一部に限定されていたため**、費用対効果の面では十分な効果を確認するには至らなかった。今後、在庫管理機能や受発注機能等を含めた**本ツールの全面的な活用により、業務効率化および費用対効果の向上が期待される。**

ツール導入がもたらした変化と今後の挑戦 — 定性効果とDX実現に向けたロードマップ —

株式会社TEKNIA 実証結果【3/4】

取組の成果（２）定性効果

デジタルツールの導入による定性効果

1. 属人化からの脱却

特定担当者しか行えなかった計画変更作業を変更権限を持ったものであれば誰もが行えるようになった

2. 社内課題の再認識と部門連携の促進

自社の課題を改めて認識するとともに、課題解決に向けた取組の契機となった。また、社内他部署との情報共有や意見交換が進み、部門間の連携を促進するきっかけとなった。



今後の目標と課題（１）ロードマップ

ロードマップ

	2026年	2027年	2028年
DXのフェーズ	デジタルイノベーションの実現（生産スケジュールのデジタル化）	未定 まず、 ①ものレボを使った生産スケジュール作成・組み替えの定着 ②納期遵守率90% に注力する。	
取組概要	デジタルツールの導入、評価		
実施内容	- デジタルツールの本格導入、効果測定 - 生産会議の週次開催 - 納期遅延リスクの検知に関する検討		

作業計画作成のデジタル化の先にある次の一歩 — 今後の課題と、デジタル化に取り組む企業への提言 —

株式会社TEKNIA 実証結果【4/4】

今後の目標と課題（2）課題

今後の課題

1. リスクの察知

生産計画を作ったからと言って納期遵守率が減るわけではない事がわかった。大切なのは事前に納期が遅れる、遅れそうな物件を事前に察知し如何に手を打つかであり。製造効率を高めるのか、事前に客先と納期調整をするのか、残業して挽回するのか等の手段の出しあいが必要である。

2. 生産管理の重要性

今回の実証計画に取り組むにあたって生産管理の大切さと、今まで取り組めていなかった事に着目できたことは大きかった。



デジタル化を推進する企業へのメッセージ

1. DXはやる気と根気です

いきなり大きな結果が出ると思ってはいけません。

やり続ければいずれ結果が見えてくるはず、これからの時代に

DX化は必要不可欠になると思われますので、すぐに出ない結果効果の少ない結果に落胆せずに前向きに続けましょう。

2. チームワークは大事

DX化は決して一人で進めることはできません。

部署をまたいで、皆を巻き込んで進めたほうが良いです。

自分では気づきにくい普段の業務や他部署の業務を第三者の目で見ると気づかされることもあります。

業務改善を如何にDX化するかにも、いろんな角度からの案が出ることもあります。